

事務 事業名	コード1	39300	地域子ども教室事業	課	生涯学習課			
	コード2		子ども向け事業の開催(公民館等)	所属班	海上公民館			
			☐ 主要事業	電話番号	55-2566	内線		
				予算科目	会計			
政策 体系	基本方針	4	心豊かな人と文化をはぐくむまちづくり	根拠法令	特になし			
	施策	5	生涯学習の充実		一般会計			
	施策の展開	4	生涯学習講座の充実・人材育成					
	基本事業	243	生涯学習講座の開催					

1 現状把握(Do)

(1) 事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☐ 平成 年度～ ☒ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで ※全体像を記述⇒	公民館等で子ども向け事業の開催(対象:主に未就学及び小学生) 海上公民館(遊び塾、英語で遊んでみよう、音楽コンサート、映画鑑賞)、 干潟公民館(書道教室、子どもミュージカル)、 いいおかユートピアセンター(子ども短期講座、音楽コンサート) 参加者は材料費等の実費を負担する。 【業務の流れ】 事業内容検討⇒講師や公演の選定・日程調整⇒内容検討⇒起案⇒通知書作成・発送⇒参加者受付・資料作成⇒物品準備⇒事業 当日立会・記録⇒事後事務処理

(2) トータルコスト

① 事業費の内訳(24年度の実績)	単位:千円
1. 報奨金	204
2. 委託料	943
3. 借上料	130
	0
② 延べ業務時間の内訳(24年度の実績)	単位:時間
内容検討、日程、講師打合等	40時間、通知書作成発送
受付業務・資料作成	20時間
7事業×110時間＝770時間	

事業費	単位	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (計画)
1. 報奨金	千円	260	204	204	322
2. 委託料	千円	1,064	665	943	2,000
3. 借上料	千円	369	81	130	137
	千円				
事業費計(A)	千円	1,693	950	1,277	2,459
うち一般財源	千円	1,693	950	1,277	1,459
正規職員従事人数	人	0.38	0.25	0.38	0.38
延べ業務時間	時間	770	500	770	770
人件費計(B)	千円	2,926	1,900	2,926	2,926
トータルコスト(A)+(B)	千円	4,619	2,850	4,203	5,385

(3) 事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	⑤ 活動指標名	単位	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (計画)
	24年度実績(24年度に行った主な活動) 海上公民館(あそび塾・英語であそんでみよう・ミュージカル・映画会) 干潟公民館(子ども書道教室・子ども芸術劇場) いいおかユートピアセンター(押し花教室・門松作り・ミュージカル) 25年度計画(25年度に計画している主な活動) 公民館等で子ども向け事業の実施 (一部事業を文化庁「地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ事業 心の復興事業」を活用して実施)	ア 子ども又は親子向け教室開催回数(延べ) イ ミュージカルやコンサート、映画などのイベントの開催数(延べ) ウ	回	41	25	38	28
目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	⑥ 対象指標名	単位	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (計画)
	旭市内の子ども(主に小学生及び未就学児) 旭市内の子ども(小学生及び未就学児)の居る世帯	ア 旭市内子ども(13歳未満) イ 旭市内子ども(13歳未満)の子どもが居る世帯数	人 世帯	7,820	7,655	7,541	7,409
上位目的	③ 意図(対象がどのような状態になるのか)	⑦ 成果指標名(考え方)	単位	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (計画)
	普段体験できないようないろいろな文化活動を社会施設で気軽に体験できる。	ア 子ども又は親子向け教室参加者数 イ ミュージカルやコンサート、映画などのイベントの参加人数	人 人	626	313	618	568
上位目的	④ さらに、どんな上位目的に結び付けるのか	⑧ 上位成果指標名(考え方)	単位	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (計画)
	子どもが心身ともに健全に育つ。	ア 幼児教育の充実 (市民アンケート調査)	%	39.9	—	—	—

(4) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か？どんな経緯で始まったか？	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか？	③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
子ども達に様々な体験や文化活動に触れてもらうため、合併前にそれぞれの社会施設で始まった。	子どもに関心を持ってもらうため、毎年内容を検討してより多くの子ども達に来館してもらうようにしている。 以前の告知方法は広報及び旧地区ごとのチラシだけであったが、現在は公民館だより、市内小学校、保育施設へ児童数分のチラシを配布している	参加者から「公民館等での子ども向けイベントが年々減ってきているのもっと増やしてほしい」との意見がある。

事務事業名	地域子ども教室事業 子ども向け事業の開催(公民館等)	課名	生涯学習課	班名	海上公民館
-------	-------------------------------	----	-------	----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが上位目的に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】	子どもたちがいろいろな文化を体験し、充実した時間を過ごせる環境があることは、子ども達が心身共に健全に育つことに繋がる。
	② 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】	主な対象は小学生及び未就学児およびその家族であり、実際に参加している対象も小学生や未就学児であるが、中学生、高校生が参加できない訳ではなく、対象は適切である。意図は、様々な文化活動に触れることは子どもの健全な育成にとって重要であり、適切である。
	③ 行政関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】	行政が関与することで、誰でも安心して参加でき、子どもたちにいろいろな体験や経験を積ませることができる。
有効性 評価	④ 成果の現状水準 あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】	公民館等での子ども向け事業はいずれも毎年定員に達しているものが多く、妥当である。
	⑤ 成果の向上余地 次年度以降の成果向上が期待できるか？事務事業を取り巻く環境変化等を考慮するとうか？	☐ 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】 ☒ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】	毎年、内容が同じ教室があるので、子供達の興味を引くような内容を検討し、変更することで、事業への参加人数を増やすことができる可能性がある。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか？ ↓ 他に手段がある場合 (1)具体的にはどのような事務事業か？ (2)類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある ↳ (1) 事務事業名：() (2) ☐ 統廃合ができる ⇒【理由】 ☐ 連携ができる ⇒【理由】 ☐ 既に統廃合・連携している ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 他に類似している事業はない。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(表面トータルコストの事業費部分) 事業費を削減できないか？(経費の精査、過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	事業費の内容が、講師謝金と公演委託料なので、事業費を減らす＝事業回数減になってしまう。
	⑧ 人件費の削減余地(表面トータルコストの人件費部分) やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用・委託により、正規職員の延べ業務時間を削減できないか？	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	業務時間も少なく、これ以上の削減は見込めない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 公平・公正である ⇒【理由】	公民館等にて開催している映画会や公演は基本的には無料なので、入場料徴収など検討余地あり。公民館等で実施する教室についても、材料費の実費負担以外の参加費徴収の検討余地あり。

3 評価(Check2)担当課長による評価結果と総括

(1)1次評価者としての評価結果 ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり		(2)全体総括(振り返り、反省点) 子ども達が様々な体験が安心して出来るように、内容の充実、また、参加人数の増加を図るため、参加者の掘り起しが重要。
---	--	--

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(Plan)

(1)今後の事業の方向性(複数選択可) ※2～3年後を目処にした方向性 ☐ 目的再設定 ☐ 行政関与の見直し ☒ 事業のやり方改善による成果向上 ☐ 事業統廃合・連携(関連事業：) ☐ 事業のやり方改善による事業費削減 ☐ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減 ☐ 受益機会の適正化 ☒ 費用負担の適正化 ☐ 廃止・休止		(3)改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
					コスト																		
			削減	維持	増加																		
成果	向上		○																				
	維持																						
	低下																						
(2)改革改善案について ※いつまでに、なにを、どうするのか？ ①毎年同じ内容の教室があるので、平成25年度中に内容の検討を行う。 ②入場料や参加費徴収について、平成25年度中に検討を行う。																							
(4)改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 ①入場料や参加費徴収による入場者・参加者数が減る等の影響を分析検討する。 ②公民館で費用を徴収することの法令上の問題を検討する。																							